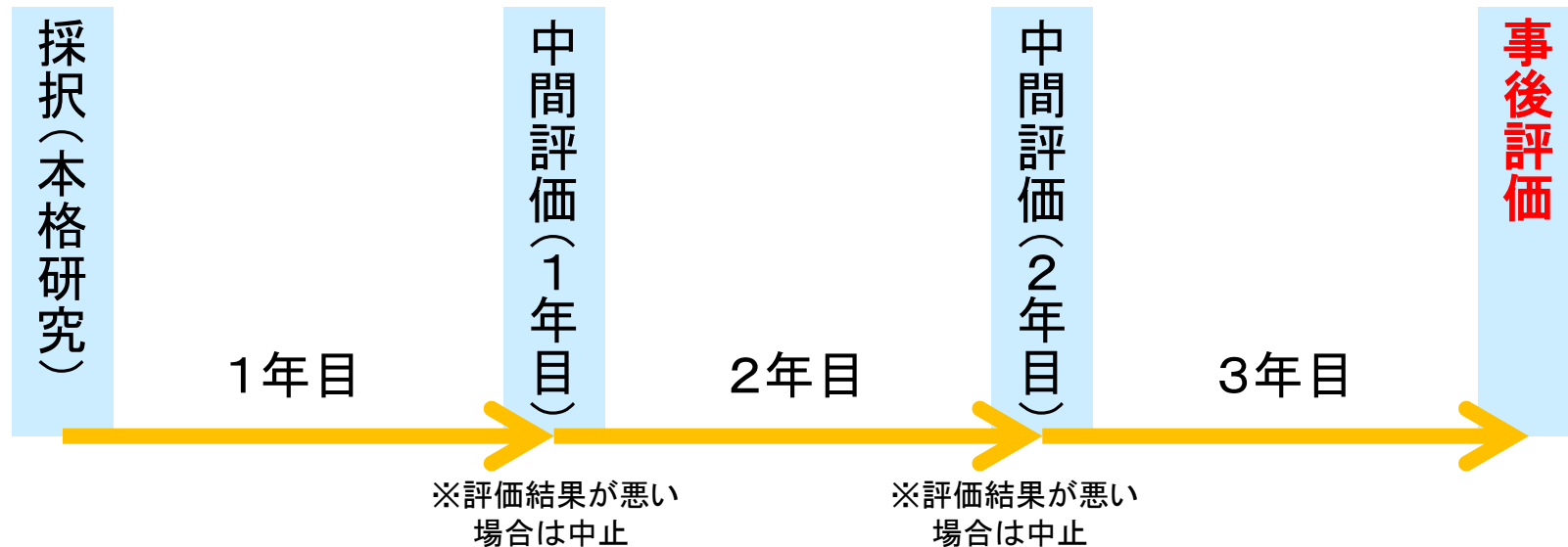


令和6年度終了課題の事後評価の実施方針案について (概要)

1. 本格研究の事後評価の位置付け及び目的

■ 位置付け

本格研究の採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



■ 目的

事後評価(本格研究)

- ・ 研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価
- ・ 今後の制度全体の評価や見直し等に活用すること

2. 事後評価の手順(スケジュール)(案)

① 研究終了報告書の提出 (3月～5月末)



② 書類の事前査読 (書面による評価) (~6月末)

- 評価分科会各委員による書類の事前査読。
(委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡)



③ 研究評価会・研究成果発表会の開催 (7月頃)

- 各分科会ごとに研究評価会を開催。
- 分科会各委員は研究課題ごとの事後評価シートを作成。
- 各委員作成の事後評価シートを基に、研究課題ごとの事後評価(案)作成のための審議。



④ 事後評価(案)の作成 (7月末)

- 研究評価会后、分科会長が事後評価(案)を作成。



⑤ 事後評価の決定 (8月頃)

- 新道路技術会議において事後評価(案)を審議し、合議により事後評価を決定。



⑥ 事後評価結果の通知及び公表 (会議後)

- 研究代表者に書面にて事後評価結果を通知
- 道路局HP等において、成果報告レポート及び公表用資料と併せて事後評価結果を公表

3. 事後評価の視点及び基準(案)

■ 評価の視点

研究の 視点	研究目的の達成度	研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。
	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。
	研究成果の 活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。
行政の 視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。

■ 評価の基準

評 点	説 明
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったと言い難い。

4. 令和6年度事後評価 対象研究テーマ(ソフト分科会)(案)

分科会	採択年度・番号	委託研究テーマ	研究代表者	研究概要
ソフト分科会	2022-1	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	我が国の道路事業を対象に、事業評価手法の改善を目指し、時間価値等の原単位の設定手法および交通量推計の手法について検討し、我が国の事情に見合った新たな事業評価手法の提案を行うことを目的とする。

5. 令和6年度事後評価 対象研究テーマ(ハード分科会)(案)

分科会	採択年度・番号	委託研究テーマ	研究代表者	研究概要
ハード分科会	2021-7	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城 一郎	本研究は、設計供用期間100年を満足する舗装の実現を目指し、高度な実験と解析を駆使したデータ同化による性能評価に基づき、フライアッシュを利活用した高耐久コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。
	2022-6	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用	岐阜大学 教授 國枝 稔	自動車産業、航空機産業、洋上風力発電事業などで用いられる炭素繊維(CFRP)から取り出されたリサイクル炭素繊維を用い、コンクリート構造物の補修に用いる補強材を開発する。
	2023-4	劣化イメージング技術と磁気・電気化学的技術の融合によるコンクリート橋梁の維持管理システムの開発	香川大学 准教授 岡崎 慎一郎	RCやPC橋梁等コンクリート構造物の劣化懸念箇所のイメージング技術、内部の鋼材の腐食速度評価、鋼材の破断の有無の検知といった3つの手法を融合させることで橋梁の高度な維持管理システムを開発し、国内外の実装を目標とする。